

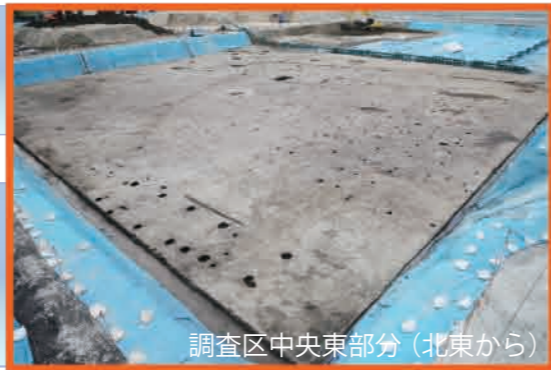
こおり へ か 郡遺跡・倍賀遺跡現地説明会資料

茨木市教育委員会・公益財団法人大阪府文化財センター



ひさし えん ほったてばしらたてもの
廂や縁の付く掘立柱建物 →
が見つかりました。

← 溝で区画された中に、
掘立柱建物が並んでいま
す。



調査区中央東部分(北東から)



① 角の丸い石を
円形に積み上げ
た井戸です。最
下段には曲物まげもの
を使っています。



② 他の井戸の最
下段に使われた
曲物の中からは、
げた
下駄が見つかり
ました。



③ 区画溝の中
にある、南側
に廂ひさしの付く東
西に長い掘立
柱建物です。

(東から)

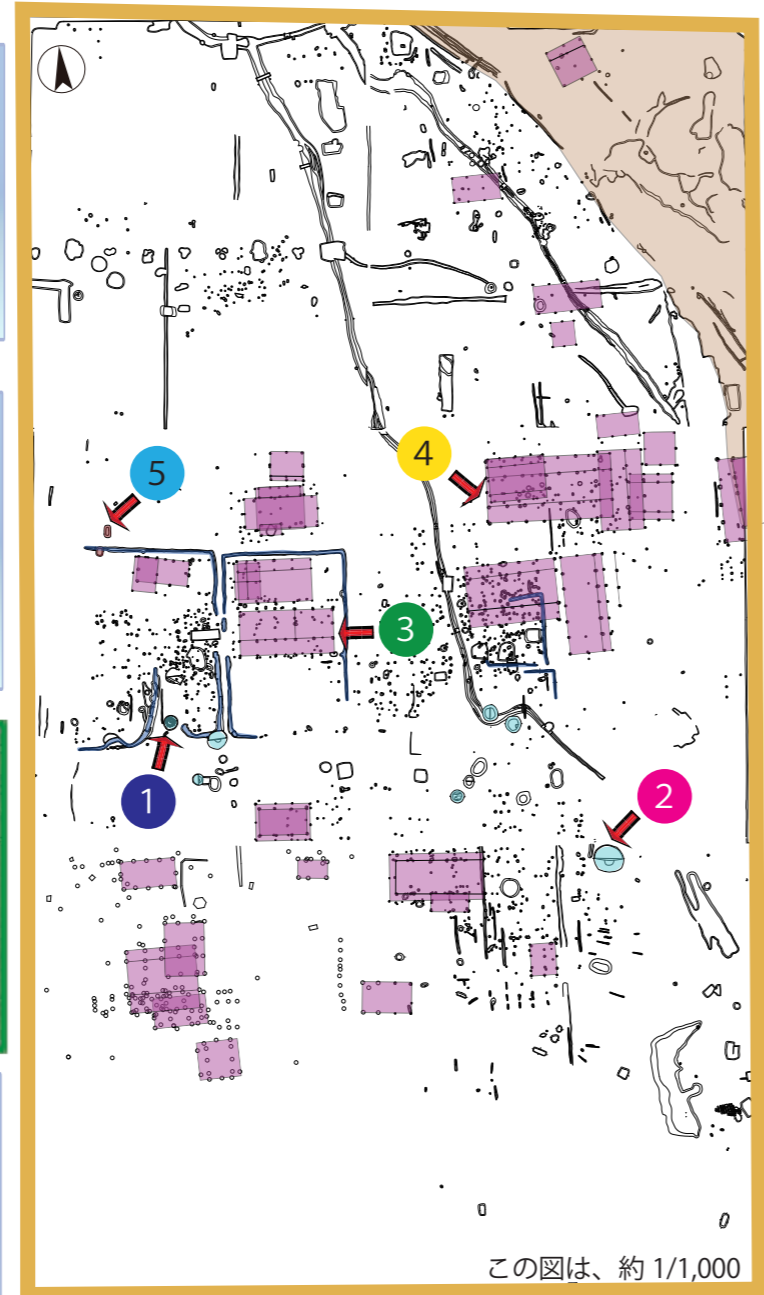


④ 東西16.5m、
南北8.2m、床
面積が135㎡の
大型の掘立柱
建物です。

(東から)



⑤ 屋敷地近く
に造られたお
墓はくじわんで、白磁碗
と短刀たんとうが出土
しました。



この図は、約 1/1,000

平安時代中～後期の遺構面

弥生時代より上の遺構面では、平安時代
中～後期(約 1,000 ～ 800 年前)のムラが
見つかりました。掘立柱建物群のほか、
井戸やお墓もあり、当時の屋敷地、ムラの
様子を彷彿とさせるものです。



調査地

茨木市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターは、茨木市松下町2番2において、平成28年6月から郡遺跡・倍賀遺跡の発掘調査を実施しています。

今回の調査地は、郡遺跡の東端と倍賀遺跡の北端にあたります。茨木市教育委員会によるこれまでの調査により、弥生時代中期から後期(約 2,200 ～ 1,900 年前)の方形周溝墓や、平安時代の集落が確認されていることから、同様な遺跡の広がりが想定されていました。

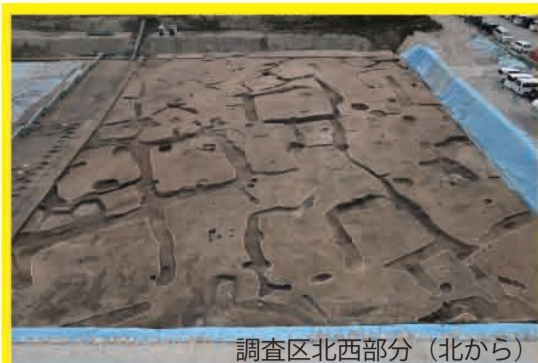
今回の調査では、弥生時代中期の方形周溝墓群が、約 16,500 ㎡に及ぶ調査地のほぼ全域で140基以上見つかりました。これは近畿地方でも群を抜く規模です。また、調査地の東部では、弥生時代中～後期の竪穴建物群も見つかりました。これらのことから、方形周溝墓群の東側には、集落が展開していたことがはじめて明らかになりました。同じ遺跡において墓域と集落域が確認できたことは、当時の地域社会を考える上で、重要な成果といえます。

なお、今回の現地説明会では弥生時代の遺構面を公開いたしますが、その上面で掘立柱建物・井戸・お墓などがまとまって見つかり、平安時代中～後期(約 1,000 ～ 800 年前)の集落の様子も明らかになっています。



調査区中央部分（東から）

調査区を斜めにのびる溝をはさんで奥には方形周溝墓が、手前には竪穴建物が広がっています。



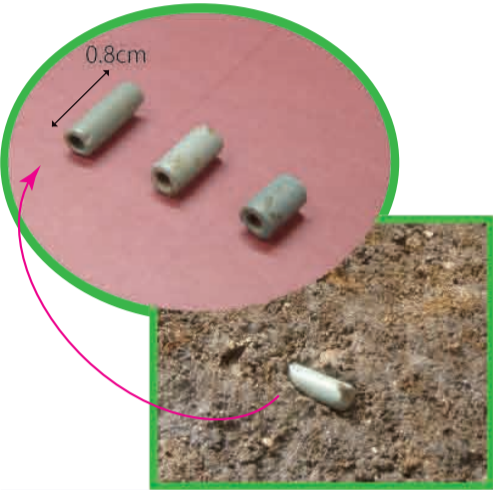
調査区北西部分（北から）

方形周溝墓群は、溝を共有して連なっています。



調査区北東部分（東から）

方形周溝墓 98 には、6つの墓壇が造られています。

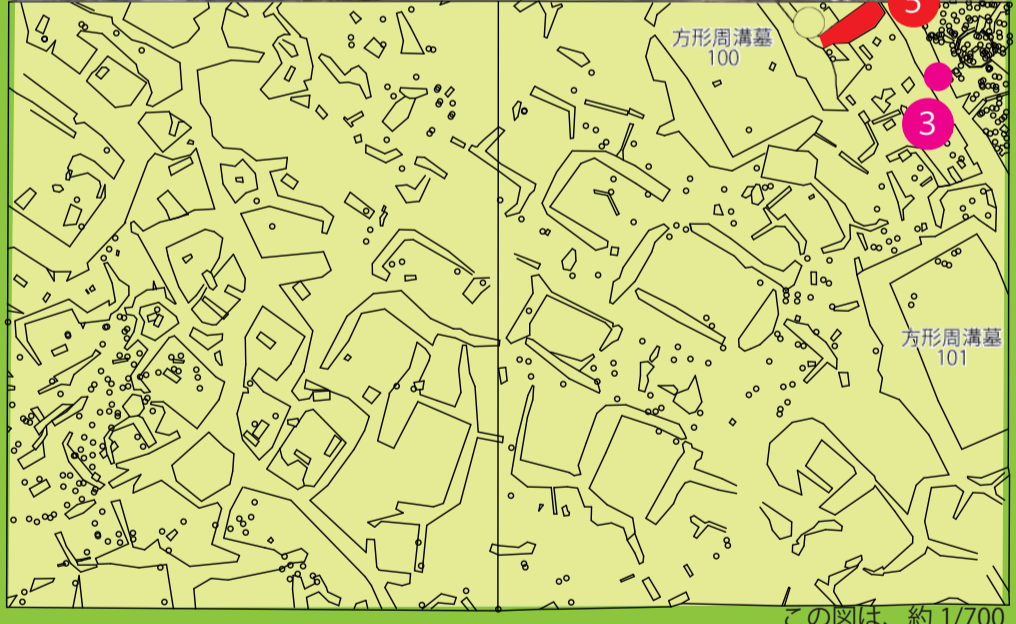


2 墓壇内から出土した碧玉製の管玉。計3点出土しています。



（南から）

4 奥の方形周溝墓 18 は、長辺が約 18m、短辺が約 12m と、今回の調査で最も大きいものです。



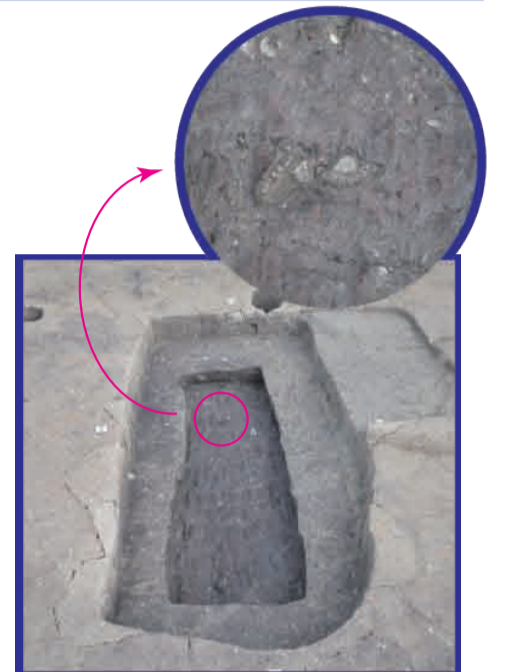
弥生時代中～後期の遺構面



5 人形土製品は、弥生時代中期の方形周溝墓 30 の溝から見つかりました。高さは 5.9cm、胴部径は 3.0cm で、丸い頭部と円筒形の胴部からなります。顔は写実的な作りで、まゆ部分は盛り上がっています。両耳たぶには穴が貫通しています。

方形周溝墓 30 の溝から、見つかった人形土製品は弥生時代中期のものとしては、大阪府域ではじめてのものです。また、方形周溝墓 98 の墓壇内から、組み合わせ式木棺の底板が見つかり、人の歯とあごの骨の一部が残っていました。その周りには、朱も見られます。

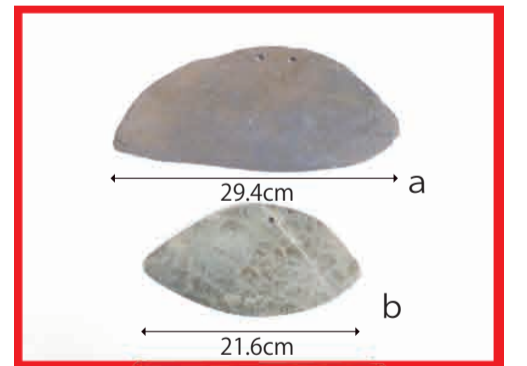
方形周溝墓 99 の墓壇からは、弥生時代中期の碧玉製の管玉が3点見つかりました。これは大阪府域では2例目で周辺地域を含めても3例目です。



1 方形周溝墓 98 の墓壇から木棺の底板と、人の歯とあごの骨の一部が見つかりました。骨の周りには、朱がみられます。



3 集落を囲む溝内から出土した土器。右側の壺には流水紋が描かれています。



5 これらは、人形土製品と同じ溝から見つかりました。石庖丁は、ふつうのものよりもはるかに大きく、aは刃の部分の長さが29.4cm もあります。cは有柄式磨製石剣の柄の一部です。